長谷川氏　私自身の壁は虫なので、畑の外で出来ることをやらせていただいています。農業女子プロジェクトに参加することによって、表彰や講師依頼をされる方の中には、ハラスメントやバッシングを受けたり、家族から理解されない方もいて、まだ農業界は、閉鎖された社会だと実感します。でも、その壁を突き破っている方たちが出てきていますので、社会が変わりつつあるとも感じています。とある企業の社長さんが言っていましたが、「出る杭は打たれるけれども、出過ぎた杭は打たれない」ということで、やってきています。

コーディネーター:杉原氏　群馬は「かかあ天下」といわれます。でも、よく働くけれども表に出てこない。勇気を持てば、女性が輝く可能性がすごくあると思います。災い転じて福となす。マイナスが我々に生き方を教えてくれます。皆、人との交流を求めています。しかし、傷つくのも人間関係です。人で傷ついて人で癒やされる。人と人が出会える場がとても大事なのかなと思います。必要なのは明るく元気でめげない世話人の存在なのではないでしょうか。

Q　日本全体で女性の地位も給料も低いです。女性が輝いていくためには、どうすべきか。これからどの課題を乗り越えたら、さらに飛躍できると考えていますか。

長谷川氏　長谷川農園は、次世代へ継承していく課題があり、試行錯誤中です。安定させていくことが地域づくり、地域活性化に繋がるので、地域の方との交流が課題になるかなと思います。女性もですが、男性同士、特に父と息子はぶつかることが多いので、継承はどの企業でも難しいですが、今の活動と、これからの活動をどのようにしていくかが課題です。

今村氏　子ども食堂は、経済的に困窮している３家族で始めましたが、皆シングルマザーのご家庭でした。ダブルワークで年収２００万円弱。やはり男女平等を経済的に広めないと、「女性が輝く」に繋がらないというのが、私の印象です。社会で女性が意見表明できない環境に、すごく疑問を感じています。ある園長先生が、「今のママたち、若い世代はとても自信がない。」と言っていました。子ども食堂の良さは、いろんな人が集う空間、自由、居場所で、いろんな意見交換ができます。そこで自分の気持ちを確認して、自己肯定感を持つのは大事だと思いました。

私が作りたい社会は、声を掛け合う関係性です。暮らしぶりも含めてどう考えるか、どう生きていくのか、家庭がどうあるべきか。自分らしくあることを根本に置いて、社会、経済的にも平等にしていくことじゃないかと思います。

コーディネーター：杉原氏　群馬県地域づくり協議会は、行政だけではなく、地域の団体も一緒に、今、必要なコト、モノを考えて、さまざまに活動されている現地に伺い、交流を深めながら、自分たちの地域づくりに活かしています。

法政大学の湯浅誠教授が、「子ども食堂が平成最後の２年間で驚異的に増えた。余生３０年を、子ども食堂を通じて素晴らしい人生を送りたい。」と言っていました。時代は変わったと。

人間が愛を持って支えられ、生きていて価値がある、自分は役に立つと感じられる場所が必要です。批判からは何も生まれません。自分が何をするか、ひとりひとりが責任を持ち、小さな事を積み重ねれば、必ず良い街になります。

日本は素晴らしい国です。今、さらなる輝けるスタートをきりました。ひとりひとりが「笑顔」「ありがとう」「おかげさま」という気持ちを持って、「愛」を込めて「生きている」ことに感謝しましょう。

皆さん、これから輝きましょう。「出る杭」になりましょう。

第 36 回 地域づくり団体全国研修交流会
福島大会

ふくしまからはじめよう
～未来を拓く地域づくり～

１１月１６日（金）　■交　流　会　□ J-VILLAGE 無料案内（希望者のみ）
１１月１７日（土）　■全　体　会
１１月１７日（土）～１８日（日）　■分　科　会

J-VILLAGE

主催者挨拶

地域づくり団体全国協議会 会長　岡崎 昌之 氏

J-VILLAGE は東日本大震災で、福島原発事故対応の最前線になったが、ひとつの段階を終えた。来年春からサッカーを楽しむ子供たちや Ｊリーガーが走り回ってくれる日を夢見ている。

ＵＩターンで福島を目指して定住する人が増えている。この人たちをどのように心豊かに自分たちの新しい戦力として迎えるかが、私たちの重要な使命ではないか。

福島の現場を見て、ヒントになるような考え方や生き方、仕組みを学んでいけたらと思う。

歓迎挨拶

（代理）福島県 副知事　鈴木 正晃 氏

東日本大震災、原発事故から７年８か月が経過した。皆様からのご支援により、少しずつ前進してきている。日本サッカーの聖地である J-VILLAGE が、原発事故対応の拠点として役割を果たしてきたが、今年の７月に新生 J-VILLAGE として再始動した。

地域の取組を体感し、それぞれの活動に活かして地域づくりの未来の輪が広がることを期待している。また、美しい自然や伝統文化、豊かな食など、様々な魅力に触れていただき、復興が進んでいる福島の元気な姿を多くの方々に伝えていただければと思う。

分科会

第１分科会	福島市	温泉と再生可能エネルギーで復興再生へ
第２分科会	二本松市	里山の恵みと人の輝くふるさとづくり
第３分科会	郡山市	未来を拓く開拓者のまちづくり
第４分科会	三春町	伝統ある町からアニメ文化を発信
第５分科会	鮫川村	なにもない過疎山間地域だからこそ出来ること～ライフシェアリング、首都圏交流促進
第６分科会	三島町	奥会津の”山力（やまぢから）”を発揮
第７分科会	昭和村	手仕事を守り伝える「からむし織の里」
第８分科会	南会津町	ワカモノ × 地域資源（アロマ）でつくる集落
第９分科会	南相馬市	“あすびと”を生み出す最前線を訪ねる
第１０分科会	楢葉町	全町避難からの新たなまちづくり
第１１分科会	いわき市	対話で育てるそれぞれのいま・未来